ヘイルメリーマガジン 2025年3月号 第10巻第106号 2025年1月30日発行・発売／発行人・編集人 小野直哉／発行所 株式会社ヘイルメリーカンパニー 〒150-0021 東京都渋谷区猿楽町1-24-1 TEL03-6416-4900

HailMary Magazine

Formation Book for Mr.Untouchable

自由が丘クリニック
30周年スペシャルエディション

ALL ABOUT JIYUGAOKA CLINIC

Read from Left to Right ➤➤➤

雑誌17999-3 定価1650円(本体1500円)

© 株式会社ヘイルメリーカンパニー 2025 printed in Japan 印刷／共同印刷株式会社

4910179990353
01500

HailMary Magazine Presents

ALL ABOUT JIYUGAOKA CLINIC

30Jc th ANNIVERSARY THANKS

Phase 1 Special Session

スペシャル鼎談
［自由が丘クリニック30周年を祝って］

Mr. T.Kawamura

Mr. N.Furuyama

Mr. M.Onozato

本誌人気連載「FACE TO FACE」でおなじみ、古山登隆さんが理事長を務める自由が丘クリニックが今年で開院30周年を迎える。そのアニバーサリーを祝し、市川学園市川高等学校（以下市川学園）の同級生である本誌編集長・小野里稔の呼びかけで、同校の大先輩であるケイダッシュグループ会長・川村龍夫さんをゲストに招き、三者鼎談が実現した。芸能界、医療業界、出版業界。それぞれ別のフィールドで確固たるポジションを築いた三者には、経営者として、またクリエイターとして「市川学園イズム」が宿っていた――。

Read from Left to Right ▶▶▶

とは『できます』、できないことは『できません』と臆せずはっきり言える。小野里さんのそういうところに共感します」

自由が丘に根差した結果、質の高いファン化が加速した

古山さんは高校受験を通じて市川学園に入学した。中高一貫校であるゆえ、新たに高校から入る場合、人数が少ないこともあって競争率が高く偏差値も高い。その狭き門を抜けて入学したのだ。

古山「本当は、別に第1志望があったのですが、運よくそちらはダメで（笑）。第2志望だった市川学園に入りました」
小野里「当時の印象は?」
古山「今でこそ"多様性"とか"個性を伸ばそう"というようなスローガンが普通になりましたが、市川学園は50年以上前からそういう校風を貫いていましたね。小野里さんのように中学から上がってきたグループと、私のように高校から入ってきたグループがあるので普通は垣根ができると思うのですが、まったくそういうことはなく、自由な空気が漂っていましたね」
小野里「あきらかに高校から入ってきた古山さんたちの方が偏差値は高かった（笑）」
古山「でも、小野里さんたち（中学進学組）のほうが文化度は高かったですよ。最新のファッションとか大人っぽい遊びとか、勉強以外のことを学んだことが大きかったです。市川学園はマンモス高ですが、小野里さんは同級生の中でも特に目立っていました。ラグビー部の花形で、ファッションリーダー的な存在でしたね」
小野里「古山さんの存在は当時からイケメンの秀才として知っていました。僕がいた文科系の10組は、落第ギリギリとか素行に問題がある生徒が集まっていたんです（笑）。川村会長の時代は、どんな感じでしたか?」
川村「私の頃も優秀な生徒はたくさんいました。たとえば、同級生のひとりに、鹿島建設から風工学研究所に移り、都市設計を手掛けた吉田正昭さんがいます。丹下健三さんに見込まれ、新宿高層ビル群の設計に携わったことで知られています。丸の内でビル風が吹かず、快適な風通しを持続しているのも彼の業績です。そういった同級生とは、いまでも付き合いがあります」
古山「市川という立地も良かったと思います。行こうと思えばすぐ都心に出られるし、勉強しようと思えば、猥雑さを避けて静かな環境で集中できる。すれっからしの都会でもないし、田舎でもない。そのバランスが心地良かったんです」
小野里「高校というより、大学のキャンパスのような雰囲気がありましたね。勉強する生徒、スポーツに熱中する生徒、遊びに命をかける生徒、いろんな個性が集まり、しかも互いに仲がいい」
古山「実際、そう感じました。生徒を型に押し込める感じがしない。きっと川村会長も小野里さんもそうだと思いますが、人真似をするのが嫌いで、ゼロから1を生み出すのが得意な卒業生が多いのは、そんな校風の影響があるのかもしれません」
川村「多感な時期に、どういう環境で過ごすかは、その人の

「古山さんは業界の常識を覆してきた。そこも市川学園らしい」（小野里）

Next Page

Phase 1 Special Session

急性膵炎に倒れた川村会長の命を救ったドクター古山の判断力

2025年1月吉日、自由が丘クリニックで実現した三者鼎談。古山登隆理事長のもとを訪ねたのは、市川学園市川高等学校（以下市川学園）の同級生である本誌編集長・小野里稔。そして本誌インタビューでもたびたびご登場いただいている「ミスター知的不良」、ケイダッシュ会長の川村龍夫さんである。

本誌編集長 小野里稔（以下「小野里」）「今回は自由が丘クリニック開院30周年を祝し、古山さんと僕の母校でもある市川学園の大先輩、川村龍夫会長にお越しいただきました」
ケイダッシュ会長 川村龍夫（以下「川村」）「30周年おめでとうございます」
自由が丘クリニック理事長 古山登隆（以下「古山」）「ありがとうございます。いつも気にかけていただき感謝しています」
小野里「古山さんが川村会長と知り合った頃は、どういう印象を持っていましたか?」
古山「高校の大先輩であり、芸能界の重鎮として大活躍されていることは勿論存じていました。私にとっては雲の上の存在でしたね。ですから初めてお会いしたときは緊張しましたが、とてもざっくばらんで、気取らない素敵な方だなぁと感じ、ますますファンになりました。いまでもお会いするたびに、こんなカッコいい80代になりたいと刺激を受けています」
小野里「川村会長にとっては、古山さんとは運命の出逢いでもあったんですね?」

川村「そう、古山さんは命の恩人。急性膵炎で倒れたときに助けてくれましたからね」
古山「人の縁というのは不思議なもので、会長と初めて食事をご一緒し、『家が近くですね』なんて話していたのですが、それからまもなくのことでした。会長の奥様からお電話が入り、『主人が痙攣を起こしています』と。不思議なのですが、いつもはその時間帯はクリニックにいるはずなのに、その日はたまたま自宅にいたんです。すぐにご自宅へ向かうことができました」
川村「痙攣が起きると、自分の意思では手足を動かせなくなるんです。内臓が溶けていく感覚ですね。倒れた場所で『もうこのまま終わるのかな』と感じながら、意識が遠のいていく。そういう状況のなかで古山さんが駆けつけてくれ、『先輩しっかり!』と言ってぎゅっと抱きしめてくれたんです。つぎの瞬間、痙攣が嘘のように止まりました。古山さんは速やかに専門医に連絡してくれ、入院の手はずも整えてくれました。そのおかげで事なきを得たのです」
古山「ありがとうございます。でも、結果的には川村会長の生命力が命を救ったのだと思います。私からの質問ですが、小野里さんにとって川村会長ってどのような存在ですか?」
小野里「最大の理解者であり、人生のお手本ですね。僕の場合、川村会長から懇意にしていただく以前は、やはり市川学園のOBで川村会長の一年先輩にあたる（故）百瀬博教さんと親しくさせてもらっていました。周囲には『百瀬さんにあれほどまで可愛がれて羨ましい』と思っている方も多かったのですが、実際に関係が深くなればなるほど大変なこともあるんです（笑）」
川村「百瀬さんは体も大きいけど、発想も規格外だから、時々とんでもない無茶振りをすることがあったよね」
小野里「はい。意見が衝突して言い争うこともあったし、百瀬さんの暴走を止めなければならない局面にも何度も逢いました。そんな僕のことを知って、川村会長が『小野里、わかるよ。お前も大変だよな』と言ってくれたんです。そんな言葉をかけてくれる人はそれまで一人もいませんでした」
川村「百瀬さんと揉めた後も、互いに頭が冷めた頃にはちゃんと関係を修復していたしね。小野里さんがいなければ、（TV番組関係者や雑誌関係者は）百瀬さんの迫力に圧倒されて周囲がイエスマンだらけになってしまったでしょうね。できるこ

「知り合ってますます川村会長のファンになりました」（古山）

Phase 2 Team JC

自由が丘の街から 世界最高峰の美容医療チームへ

1995年、古山登隆さんは、自由が丘という街に根ざした地域密着型美容医療をコンセプトに掲げ、自由が丘クリニックを創設した。以来、そのコンセプトを貫き通し、流行には目もくれず、アカデミアの精神に則って着実に高度な美容医療を提供しつづけ、日本を代表する「美の総合クリニック」としての地位を築き上げた。現在、自由が丘クリニックには優秀なスペシャリスト（専門医）が多数在籍する。同時に、個々の知識や技術をさらに高レベルな医療につなげるため、大学病院に倣ったチーム医療体制を構築している。いまや世界が注目する「Team JC」を取材した――。

01 JC-ISM

ドクター古山が提唱する Japan Beautyとは?

弊誌連載「FACE TO FACE」を通じて我々は、古山登隆さんの医師としてのオリジナリティの高さを目の当たりにしてきた。「ドクター古山」の名が世界の美容医療業界に轟いた要因のひとつに、「Japan Beauty」という日本人独自の「美」を定義づけたことが挙げられる。それまでの日本の美容医療は、欧米の理論や技術をベースに構築されていたが、古山さんは、日本人と欧米人との骨格は根本的に違い、同じ理論や技術を用いた施術ではミスマッチが起こる場合があることに逸早く気づいていた。そこで彼は、メスを入れないノンサージェリーの施術を活用し、日本人に適した美容医療のメソッドを考案したのである。その美の基準を具体化したものが、「3LTBST」である。「3L」とは顔における3つのLineを示す。1つめが「Face Line」（理想の輪郭で女性は楕円やハート型）、2つ目が「Ogee Line」（顔を作る若々しい曲線）、3つ目が「Aesthetic Line」（美しく見える横顔の条件）。「3L」の次に来る「T」とは「Central Triangle」の略。両眉尻と顎先を結んでできる逆三角形を示す。最後の「BLT」とは「Balance, Symmetry & Skin Tone」の略で、顔のパーツの位置がバランスよく配置しており、色ムラのない肌のことを示す。この3LTBSTが整うことによって、その人の良さがさらに引き立ち、『内、外、心』から美を追求する自然の美しさ（Natural Beauty）を得ることができると唱えたのだ。古山さんは言う、「"華"は化粧や装飾によって演出できても"品"がなくては真の美しさは手に入りません。内、外、心から真の"品"を持たせるには、作り過ぎず、自己主張し過ぎず、ナチュラルな美しさを引き出すための技術とセンスが必要になります。そのセンスを磨くのに重要なのは、日本独自の"気"や"間（ま）"を五感で捉えることができる力ではないでしょうか。"気"はムード、オーラと言い換えてもいいかもしれません。"間"は距離感やタイミングの取り方。そんな"気"や"間"を感じ取るためのセンサーを私たち医師がいかに磨き上げるか。そこがJapan Beautyを実現する大きなポイントだと感じているのです」

自由が丘クリニックの院内には古山さんが描いた数多くの絵画作品も飾られている。アーティストのセンスも抜群なのだ

Next Page

Phase 1 Special Session

「これでいいという答えがない。だから仕事は楽しい」（川村）

人生を左右する大きな要素だと思います。たとえば、若い俳優が一流の俳優と一緒に仕事をしたときに何を感じ取るかによって、その後の成長は大きく変わっています。渡辺謙さんが（大河ドラマ）『独眼竜正宗』で勝新太郎さんと共演したとき、どんな芝居をしても全部跳ね返されたと言っていました。『収録中に勝さんが急にアドリブで暴れ出したこともあります。その迫力が素晴らしかった。もう一度勝さんと仕事をしたい、そう思ったからこそ俳優を一生の仕事にする決意をしたんです』とね。その経験がのちに国際的スターとして活躍していく礎になっているんです。一流の俳優を前にしても、何も感じない人がいる。そういう人は一時的にチヤホヤされても結果的に伸びません。さきほどから二人の話を聞いていると、私たちはきっとそういった感性を市川学園で磨いていたのかもしれないね」

小野里「そのとおりだと思います。古山先生は、古くからある日本の美容医療業界の常識をひとつひとつ覆してきましたね。そういうところも市川学園らしいです」

古山「自由が丘という街にこだわり、患者様が自由が丘の地まで進んで足を運んでくださる、そんなクリニックづくりを行ったことで明確な差別化がはかれたと思います。いまでも私の立ち位置は、最良の町医者でありつづけることです。この地に根差したうえで世界トップレベルの質の高い医療サービスを提供することを目指し、気づいたら30年経っていたという印象ですね」

小野里「その結果、医師として古山さんの魅力を知っている人たちの質の高いファン化が進んでいるんでしょうね。それは質の高いエンターテインメントに通じるところがあると思います。たとえば毎年恒例になっているケイダッシュグループの新年会にもそうそうたる顔ぶれのゲストが集います。それは、業界の人たちがおべっかを使いに集まるのではなく、本当に川村会長のことを好きでたまらないから集まってくるんです」

古山「これは60代の私と小野里さんからの共通の質問ですが、川村会長は何歳まで現役として活躍したいですか?」

川村「良い素材に出会うと、そういう人たちがこの先どのように成長するのか楽しみで仕方ないから、何歳までといったことを意識している暇はないですね。才能の原石は磨けば磨くほど輝く。そこに限界はない。マネジメントの仕事にも『これでいい』という答えがない。だから楽しいんです。私は、他の事務所に所属しているタレントさんでも、良い演技を見せてくれたり、良い歌を聴かせてくれた時は素直に『素晴らしかった』と伝えるようにしています。古山さんも、患者さんがきれいになると純粋な喜びを感じるでしょう」

古山「おっしゃる通りですね。私は人をきれいにすることが好きなんです。それは外見を整えるだけでなく、患者様が自信を持ち、笑顔になる瞬間に立ち会えることが何よりの喜びです。川村会長の仕事は、エンターテインメントで世の中を明るくする力があります。小野里さんの仕事も、ライフスタイルの提案によって日本中の男性をカッコよくしてくれるパワーがある。死ぬまで自分が好きなことに熱中し、結果として世の中に貢献できれば、こんな素晴らしいことはありません」

小野里「現役バリバリの話でいうと、川村会長がランチを終えたレストランから出てきて颯爽と車に乗るときの立ち振る舞いがすごくカッコいいんです。会長は無意識にやっていると思いますが、こうすればカッコよく見えるというツボを押さえているように感じる。これは古山さんがいま研究している『無作為の作意』という日本人の美意識や感性に通じると思います」

古山「ぜひ研究課題にさせてください。今日は、最高のお手本である大先輩とこれからも張り合っていたい同級生のお二人にエールを送っていただき、ありがとうございました」

小野里稔／本誌編集長。今回の市川学園OBによる三者鼎談の仕掛け人。アメリカンカジュアルの服装術を中心にダッズ世代と言われるミドルエイジ層のライフスタイルに影響を与えつづける。市川学園時代はラグビー部に入部、中高ともにキャプテンを務めた

川村龍夫／ケイダッシュグループ会長。ケイダッシュを日本の芸能界を代表するプロダクションとして成長させ、グループの長として日本のエンターテインメントを牽引している。市川学園時代はバスケットボール部のマネジャーとして手腕を発揮したそうだ

古山登隆／自由が丘クリニック理事長。日本の大学病院における「美容外科」を本格的にスタートさせ、美容医療をリードしてきた業界のパイオニア的存在。ノンサージェリー施術の分野で世界屈指のドクターであり「ジャパンビューティー」の提唱者でもある

自由が丘クリニックのドクターたちにとって、世界トップレベルの腕を持つ古山理事長のノンサージェリー施術のノウハウをその場で学べるというメリットも大きい。写真右端のドクターは皮膚科部長を務める松浦佳奈さん

には各分野の専門医が在籍しているので、院内で最適な施術方法について相談することができます。これは一般のクリニックでは不可能なことですし、私たちにとっても患者様にとっても良いことだと思います」。兵頭さんは40歳の若さで副院長の重責を担っているが、相手を温かく包み込むような落ち着いた語り口からは年齢以上の安心感と貫録が漂う。誠実で丁寧なカウンセリングに定評があるそうだ「個人的にはもっとスキルを伸ばしたいですね。治療の限界を打ち破りたいです。"今の技術ではここまでできる"の"ここまで"を、一歩でも二歩でも前に進めていきたいです」

女性医師を代表し、形成外科部長の古山恵理さんにも話をうかがった。ヒアルロン酸注射、ボトックス注射、レーザーなどのデバイスによる治療を得意とする。「レーザー治療は、オペに比べてダウンタイムが短くて済むというメリットがあります。患者様の希望に応じて、幅広い選択肢の中から最適な施術ができるよう知識と経験を増やしています。レーザー治療のデバイスは進化するスピードが早いので、つねに最新の情報にふれるよう心掛けています」。父は古山理事長、ご主人も外科医というドクターファミリー。子育てと仕事の両立は大変だが、充実感を得ていると語る。「私はスタッフドクターの中では中堅的な立場になります。先輩ドクターに置いていかれぬよう、また後輩のよきお手本になれるよう頑張っていきたいですね」

国立病院などで形成外科医としての経験を積み、2020年より自由が丘クリニックの常勤医となった古山恵理さん（現・形成外科部長

形成外科・美容外科・美容皮膚科（非常勤）

形成外科・美容外科/医学博士 緒方 寿夫（非常勤）
形成外科・美容皮膚科/医学博士 杉本 佳香（非常勤）
形成外科・美容外科 坂田 芳洋（非常勤）
形成外科・美容外科 井上 真衣（非常勤）
皮膚科・美容皮膚科/医学博士 佐々木 駿（非常勤）
皮膚科・美容皮膚科 梶原 朋恵（非常勤）
皮膚科・美容皮膚科/医学博士 臼井 佳恵（非常勤）

麻酔科

皮膚科・美容皮膚科 桂 友理（非常勤）
皮膚科・美容皮膚科 太田 美和（非常勤）
オンライン診療 芫輪 薫瑠子（非常勤）
口腔外科・歯科・形成外科・美容外科/医学博士/歯学博士 山崎 安晴（非常勤）
麻酔科標榜医 上原 清（非常勤）
麻酔科 田坂 洋介（非常勤）
麻酔科/医学博士 川島 恵子（非常勤）

HISTORY of

1995 自由が丘クリニック開院
1997 ケミカルピーリングを開始、一大ブームに
予防医療の原点、ビタミン注射・点滴を開始

1999 ドクターズスキンケア「JC program」販売開始
2000 ボツリヌス製剤注入を開始、ノンサージェリーによるアンチエイジングを提唱
2003 自由が丘クラブ創設。会員情報誌「News Letter」創刊
2005 自由が丘の街を走るエコバス「サンクスネイチャーバス」にサポーターとして協賛開始

2007 手術部門のトップとして中北医師が院長に就任
2008 予防医療をより発展させるため「高濃度ビタミンC点滴」を開始
2010 メルボルンで開催の注入技術の国際会議「Asia Pacific Facial Aesthetic Council」に古山理事長が日本人で唯一招待される

2012 セブ島で開催の注入技術の国際会議「Asia Pacific Medical Aesthetic Congress 2022」に古山理事長が招待される
2013 上海形成美容外科学会にアジア人として初めて古山理事長が招待され、講演と指導を行う
2015 自由が丘クリニック開設20周年
2016 ストックホルムで開催の国際シンポジウム「Beauty Through Science」にアジア人で唯一古山理事長が招待される
中北医師が総院長に就任

2018 中国成都市と美容医療の教育事業について業務提携
2019 ボツリヌス製剤でのシワ治療が厚労省承認から10周年を迎え、記念シンポジウムで古山理事長が基調講演
中国有数の企業、上海复星国際社と医師の派遣と教育事業で業務提携
2021 KJC北里美容医学センター開院
自由が丘倶楽部会員数1万名突破

2022 世界的美容医療の国際学会AMWCの日本初開催（AMWC Japan）に伴い古山理事長、自由が丘クリニックの医師陣も登壇
「代官山FLUX」との提携によりエステを開始
2023 モナコで開催のAMWC Monacoに古山理事長がVIPとして招待を受ける
2回目となるAMWC Japanで古山理事長がオープニングの挨拶を務め、「BONSAI AESTHETICS」の名が初めて世界に知れ渡る
世界的学会のAMWC CHINAに兵頭副院長が日本で唯一招待を受け、演題を発表

2024 秋本医師が院長に就任
世界的学会AMWC Monacoに古山理事長が日本人で初めて基調講演に登壇、「BonsaiAesthetics」を講演
各種看板をリニューアル

2025 自由が丘クリニック30周年

Next Page

Phase 2 Team JC

02 BEST DOCTORS

左から自由が丘クリニック院長の秋本峰克さん、眼瞼手術チーム主任で自由が丘アカデミー代表理事も務める大慈弥裕之さん、自由が丘クリニック副院長の兵頭徹也さん

美の総合クリニックを支えるスペシャリストたち

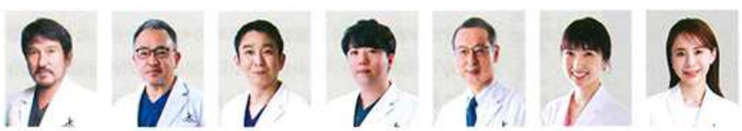
自由が丘クリニックは、大学病院などで実践されているチーム医療を採用し、高い技術力と豊富な実績をもつ医師や医学博士がそれぞれの分野で活躍する。世界基準で考えても、これほどの高レベルなチーム医療体制を有する「美の総合クリニック」は珍しい。その中核を担うドクター陣からコメントをいただいた。まずは総院長を務める中北信昭さんだ。「これまでの成果の積み重ねが30年という歴史として形になったと思います。引き続き『内、外、心から美を追求する』という自由が丘クリニックの礎となっているスタンスを堅持しながら一歩ずつ進化していきたいですね。日本の美容医療市場は大きく成長し、競争が激しくなりましたが、自由が丘クリニックはこれからも『医療』として正当に評価される、安全・安心でハイレベルな技術を提供し、研鑽も重ねていきます。古山理事長はノンサージェリーのエキスパート、私は外科のエキスパートとしてお互いのポジションを尊重し、役割分担してきました。同様に医師やスタッフ間の信頼で結ばれたパートナーシップがあるからこそ、各自が得意分野に集中できる環境が実現していると思います」

チーム医療の強みを、院長の秋本峰克さんも指摘する。「自由が丘クリニックでは鼻や目などの手術や注入医療のチームがあり、『定期的にディスカッションする』、『必要なタイミングで相談ができる』といった体制が整っています。また、形成外科、美容外科、美容皮膚科、教授外来など、各分野のスペシャリストが多数在籍しているのは『全てはここで解決できる』という理念の現われです。私自身も、患者様のご要望にしっかりとお応えするために美容外科学会（JSAPS）専門医、形成外科専門医だけでなく、レーザー分野など複数の専門医を取得し、形成（手術）、皮膚、スキンケアまでサポートできるような診療を行っています」

美容外科手術をはじめヒアルロン酸・ボトックス注入などのノンサージェリー施術も得意とする副院長の兵頭徹也さんに話を聞いても、まず出てくるのはチームワークの話だ。「患者様の希望と、施術後の結果に齟齬が生じないよう、施術前のイメージのすり合わせは丁寧に行っています。クリニック内

自由が丘クリニック総院長の中北信昭さん。大学病院などでの小児先天異常や顎変形症の豊富な手術経験を生かし、鼻の美容医療手術と、顔面骨格形成手術を主に担当している

形成外科・美容外科・美容皮膚科



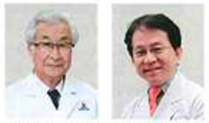
理事長 形成外科・美容外科/医学博士 古山 登隆
総院長 形成外科・美容外科/医学博士 中北 信昭
院長 形成外科・美容外科/医学博士 秋本 峰克
副院長 形成外科・美容外科/医学博士 兵頭 徹也
眼瞼手術チーム主任 形成外科・美容外科/医学博士 大慈弥 裕之 ●福岡大学 名誉教授
形成外科部長 形成外科・美容外科 古山 恵理
皮膚科部長 皮膚科・美容皮膚科 松浦 佳奈

JIYUGAOKA CLINIC DOCTOR'S FILE

教授診療

皮膚科・美容皮膚科/医学博士 川島 眞（非常勤）●東京女子医科大学 名誉教授
消化器外科/医学博士 渡邊 昌彦（非常勤）●北里大学 名誉教授
形成外科・美容外科/医学博士 武田 啓（非常勤）●北里大学形成外科・美容外科 主任教授
形成外科/医学博士 河野 太郎（非常勤）●東海大学医学部外科学系 形成外科学 教授
皮膚科/医学博士 山田 秀和（非常勤）●近畿大学 アンチエイジングセンター 教授
形成外科・美容外科/医学博士 大原 博敏（非常勤）●国際医療福祉大学病院教授
内科/医学博士 柳澤 厚生（非常勤）●杏林大学保健学部臨床内科 教授
形成外科・美容外科/医学博士 佐藤 明男（非常勤）

指導教授



形成外科・美容外科/医学博士 塩谷 信幸（非常勤）●北里大学 名誉教授
心臓血管外科/医学博士 渡邊 剛（非常勤）●元金沢大学医学部心臓・総合外科 教授

Message from VIP of the World

自由が丘クリニック30周年、誠におめでとうございます!

この30年間、自由が丘クリニックは数多くの優れた専門家を迎え入れ、その卓越した知識と経験を結集することで、独自の治療理念と先進的な技術を確立されてきました。

また、クリニックが常に革新を追求し、最新の医療技術を取り入れることで、美容医療の分野におけるリーダーシップを発揮してこられたことに敬意を表します。

Dr. Li Qingfeng
第九人民病院　副院長（中国）

自由が丘クリニック30周年おめでとうございます!

古山先生と自由が丘クリニックの皆様、この素晴らしい偉業、審美医療の分野で30年間にわたる卓越したご活躍を、心よりお祝い申し上げます。創設以来、自由が丘クリニックは、最先端の技術と倫理的な実践、そして卓越したケアを融合させ、つねにイノベーションを起こし、日本の美容医療を牽引してこられました。

2010年以降、古山先生とのご縁をいただき、その友情を通じて先生のビジョンに満ちたアプローチと業界への情熱を直接目にする機会に恵まれました。この年月の中で、チームの驚くべき成長や最新の取り組みを拝見し、卓越性の完成度と評判がさらに高まる様子を見届けてきました。古山先生のリーダーシップは、日本国内の多くの実践者に対し、国際的な基準を満たすレベルへ引き上げるうえでのインスピレーションを与えてつづけてます。

さらに、古山先生は日本の医師に対する審美医療教育の推進において重　要な役割を果たし、ご自身の知識と専門性を共有することで、国内の実践基準を高めてこられました。

再生医療分野における新たなプロジェクトが控える中、自由が丘クリニックはこれからもリーダーシップを発揮し、革新を続けることでしょう。さらなる成功と革新的な活動が続くことを心からお祈りいたします。明るく無限の未来に乾杯

Dr. Steven Liew
形成外科専門医（オーストラリア）

古山先生は、日本における美容外科および再生医療の分野で先駆者的な存在として、その卓越した歩みを30年以上にわたり続けてこられました。自由が丘クリニックのビジョナリーとして、科学的精密さへの揺るぎないこだわり、安全性の徹底、そして芸術性を融合させた取り組みによって、他の追随を許さない高みを築いてこられました。

また古山先生は、その卓越した専門性だけでなく、周囲に大きなインフルエンスを与える存在としても広く知られています。高度な技術と創造的な才能を兼ね備えた稀有な存在であり、真の優しさと深い芸術的感性、そして卓越性への揺るぎない献身が、私たち同僚や患者の心をも魅了してきました。さらに、献身的な家族愛にも学ぶべき点があり、大切な友人でもある古山先生の影響力は、クリニックの枠を超えて広がり、幸運にもその存在に触れたすべての人々の心に消えることのない足跡を残しています。

30周年、心よりお祝い申し上げます。

Dr. Ali Pirayesh
形成再建外科医（オランダ）

GROUP of JIYUGAOKA CLINIC

シナジー効果をもたらす自由が丘クリニックのグループビジネス

医療

医療法人社団 喜美会
グループの母体となる美容クリニックの運営

自由が丘クリニック 本院

自由が丘クリニック ソフィア

KJC北里美容医学センター
北里研究所病院と自由が丘クリニックの連携によって誕生した、形成外科、美容外科、美容皮膚科の専門医からなる美容医学の新拠点

NPO法人 自由が丘アカデミー
一般社団法人 美容予防医療研究会

美容医療専門医の育成、美容医療に関する研究、正しい美容医療情報の発信、海外医師研修による国際交流などを目的に設置されたアカデミー。大意弥裕之医師が理事長を務める

海外マーケティング

株式会社 The Medical
海外医療コンサルティングを展開するブレインカンパニー

クリエイティブ

株式会社 アートクリエイトフューチャー
クリエイティブの企画・制作・SNS運用ビジネス等を展開

薬局

株式会社 古山薬局
昭和21年に薬剤師、古山喜一が千葉県市原市に、フルヤマ薬局を開設。7年後に株式会社古山薬局を創業。以来、調剤だけでなく、薬局内で製造販売できる薬局製剤を取り揃い、地域医療に貢献

プロダクト

株式会社 自由が丘クリニック
ドクターズコスメティクス
自由が丘クリニックが監修する最高品質の基礎化粧品等の販売

株式会社 自由が丘クリニック
ドクターズプロダクト
自由が丘クリニックが監修する最高品質のサプリメント等の販売

株式会社
メディカルラボラトリー
化粧品のOEMを担うラボラトリー

NEXT PAGE

Next Page

Phase 2 **Team JC**

03 Road to the Top of the World

世界のトップが認めた感性のプレゼンテーション

自由が丘クリニックのもうひとつの強みは、1980年に北里大学病院で日本初の美容外科の開設に関わった古山理事長が、当時の理念を忘れずつねにアカデミアと連携し、日々技術を高める努力を惜しまず、美容医療の向上をはかってきた点にある。2021年4月に設立された「NPO法人自由が丘アカデミー」や同年11月に設立された「KJC北里美容医学センター」はその精神が具現化したケースであり、あくまでアカデミアの観点から深く美容医療を掘り下げていく姿勢が、自由が丘クリニックの存在を世界市場へ押し上げる原動力になっている。古山さんは「自分が切り込み隊長にならねば」という強い使命感をもって、ミレニアム以降、海外へ飛び出したという。その結果、アカデミアに紐づいた古山イズムのメソッドや一流のテクニックに世界の美容医療界が驚き、海外のトップドクターからもリスペクトされるようになった。世界の壁を突き破ることができたのはなぜか。つぎの言葉にヒントがあると思えるのだ。

2010年代以降、美容医療界の国際カンファレンスに登壇する機会が増えた古山理事長。「Japan Beauty」を世界に伝授する、アカデミアに紐づく科学的美容医療研究をベースにしたプレゼンテーション能力は折り紙付きだ

「面倒で誰もやってこなかったことを率先して行ったことが、自由が丘クリニックの立ち位置を示すことにつながったのではないかと思います」

古山さんは日本独自の美意識を「Japan Beauty」や「Bonsai Aesthetics」というコンセプトに置き換えて表現し、世界のステージでプレゼンテーションしてきた。たとえ技術は追いついたとしても、他のドクターが真似できないセンスが、この提案の中身にはある。たとえば、明らかにケアをしましたというようなわかりやすい結果を求めるのが「Korean Beauty」だとすれば、古山さんが提案する「Japan Beauty」の場合、元の顔立ちを最大限に生かし、ちょっと見ただけではどの部分をケアしたのかわからない、しかし正面から見ても左右から見ても確実に美しくなっているという結果を求めるケースが多い。そんな美を表現するのに、古山さんは盆栽づくりの業を例に持ち出し、美の法則を解く。世界トップクドクターたちと数多くコミュニケーションを取ってきた古山さんが、その経験をもとに確信している日本人の強みは、「定量化できないことを敏感に読み取り、実行できる能力」だという。「いま私が興味を持っているのは、『無作為の作意』という言葉です。日本庭園を作り上げる庭師の言葉で、手入れをする庭師の作為が感じられないほど、庭園を自然に仕上げるという意味です。まるで人の手が入っていないかのごとく自然な庭を指します。無作為のようで、じつは相手にどういう印象を与えるかをしっかり計算しつくして完成した自然の美。そういった感性に基づく美を、美容医療の世界で表現できるエビデンスが、すでに私たちにはあります」。

2022年、「AMWC Japan」日本初開催時のスナップ。世界の美容医療界を牽引するトップドクターの一人として古山理事長が登壇した

2023年に第2回目となる「AMWC Japan」が京都の国際会議で開催された際には古山理事長がオープニングの挨拶を務めた。また、古山理事長と兵頭副院長で「ヒアルロン酸などノンサージェリー治療による“盆栽”コンビネーション治療」というテーマで講演。「ボンサイ・エステティック」の名が初めて世界に知れ渡った

AMWC Japan 2024では、古山理事長が日本人独自の美しさを叶えるノンサージェリー治療「Bonsai Aesthetics」と、古山恵理医師がPRPを用いた美肌治療について発表した

Phase 3 Relife Clinic

「再生医療」へのチャレンジ

2025年1月、東京銀座に、再生医療の新拠点が誕生した。臨床（診察・治療）を担当する『東京リライフクリニック』を中心に、細胞培養・検査を受け持つ『東京リライフラボラトリー』、分析・研究を担う『東京リライフ×東京大学』のクリニック+ラボ+研究機関が三位一体になった世界唯一の再生医療グループがその活動をスタートさせたのである。抗加齢、ヘルスケアの領域において世界トップレベルの研究機関が連携し、アカデミアの最先端研究・技術を臨床現場へいち早く実装させることを可能とする「再生医療のメッカ」を目指す――。

美容医療と再生医療の両面から ウェルビーイング実現を叶えていく

東京リライフクリニック創設の中心的役割を担当したのが、THE MEDICAL代表であり、自由が丘クリニックグループ最高執行責任者も務める古山喜章さんだ。今回は、父親でもある古山理事長にもご出席いただき、お二人に話をうかがった。まず、『東京リライフクリニック』を創設したきっかけについて聞いてみた。

「この15年で美容医療は世界的に認知され、多くのユーザーが気軽にクリニックを受診できるようになりました。その分、クリニック間の競争も厳しくなっています。将来の成長を見据えた時、最も可能性がある分野は何か、そう考えた時に注視したのが再生医療でした」（喜章さん）。

これは、自由が丘クリニックが海外に目を向け始めたタイミングとも一致する。古山理事長は、2010年代に喜章さんと訪れた北京空港の風景が印象的だったと語る。

「二人で北京へ出張に行ったのですが、空港施設の豪華さ、人々の活気、これから経済成長期に入ろうとする社会の活気などを目の当たりにして、『日本国内の限られた市場でパイの奪い合いをしている場合じゃない。これからは海外で勝負できる実力をつけなければ』と強く感じました」（登隆さん）。

東京リライフクリニックグループCEOの古山喜章さん。THE MEDICAL代表、自由が丘クリニックグループのCOOも務める

自由が丘クリニックは、形成外科・美容外科・美容皮膚科・美容内科・再生医療・メディカルエステの施術を豊富に揃えた美の総合クリニックとして、ウェルビーイングの実現を叶えるための医療を目指してきた。再生医療は、その思想にも合致する。ウェルビーイング（Well-being）とは、心身ともに満たされ、自分らしくいきいきと生きている状態を指す概念で、意味する範囲は幅広い。その広い分野を美容医療と再生医療の視点から網羅し、具現化し、ユーザーに提供可能なものにする。それが自由が丘クリニックと東京リライフクリニックが合致する目的地である。

「再生医療の研究はまだ緒に就いたばかり。今はまさに黎明期です。ビジネス界には先に道を切り開いたものの優位性がありますが、美容医療界も同じです。東京リライフクリニックは、日本の、そして世界の再生医療の最先端を目指しています。その目的を達成するため常識の逆を実践しました。これまでの医療研究機関というと、湾岸地帯の埋め立て地や、地代が安い郊外に土地を確保し、いかにも研究所風の無味乾燥な施設が当たり前でした。東京リライフクリニックは銀座のど真ん中のビルに3フロアを確保し、内装も高級サロンのような優雅さを大切にしています。1995年に自由が丘クリニックを開設したとき、理事長がそれまでの美容医療業界のすべて逆をやって成功した、そのアイディアの継承でもあるのです」（喜章さん）

今年1月にオープンした東京リライフクリニック（総院長：石川正志医師）。クリニック・ラボ・研究機関が一体になった世界唯一の再生医療グループとして、「現在の機能の回復・向上」と「老化の緩和・回復」という2つの観点から、短期＆長期において最高のリターンを得るための治療を提案・提供していく／所在地：東京都中央区銀座7丁目8-17　虎屋銀座ビル 6-8階 tokyo-relife.com

施設面だけでなく、臨床面でも完成度の高さを目指している。

「ユーザーは、5年後、10年後の成果のためにクリニックに通い続けることは精神的にもなかなか大変だと思います。そこで、5～10年後の長期的なケアと並行して、短期間で効果を実感できるケアも体験できるようにしています。具体的に挙げるなら、疲れが取れて気分がスッキリする、睡眠の質が良くなる、男性機能が回復する、といった治療です」（登隆さん）

「再生医療が目指す究極の目標はエイジング・ギャップの解消です。実年齢40歳の方が健康診断の結果、生物学的年齢が45歳だと出たら、それは5年分余計に老化していることになります。そのギャップを解消し、実年齢と生物学的年齢を一致させることが第一歩。その先には、実年齢より生物学的年齢が若い、という状態を目指します。40歳から再生医療を受診し老化速度を半分に遅らせることができたら、50歳の時に生物学的年齢を45歳に維持できる。これは実質的に、5歳若返ったと解釈することができます。シニアの方が若者の肉体に戻るとか、永遠不死の体を手に入れるというのはSF小説の世界になりますが、再生医療が進歩することで、SFの世界に一歩でも二歩でも近づくことは可能だと思います」（喜章さん）

「再生医療が臨床現場に浸透する過程で優先されるべきは、事故や病気で機能を失った患者様の機能回復に役立つことだと思います。美容医療に応用されるのはその次、という順番になります。東京リライフクリニックのラボは、美容医療に軸足を置きながら、目先の利益を追うのではなく、医学界全体に貢献できる研究を進めていくことになります。それはクリニックとしてきわめて健全な姿だと思います」（登隆さん）。

美容医療のメッカとして海外からのユーザーも数多く訪ねてくる自由が丘クリニック。今後は、再生医療のメッカとして銀座の東京リライフクリニックが世界の注目を集めることになりそうだ。

30年前に古山理事長は自由が丘クリニック開院した。そしてほぼ同じ年齢で長男の喜章さんが東京リライフクリニックをスタートさせたのだ

Next Page